

# PACK ON

2012-2013 No.19

岡山細胞検査士会会報

CONTENTS

とほほシリーズ、番外編

●前口上

ああ、咲き誇る花に似て

●リレー・他個紹介 ～倉敷成人病センター～

巡り会うこの1冊

●コラム・うちの本棚 Vol.13

光輝くPCオタク K's Presents

●コンピュータ・ワンダーランド 2012-2013

卒業式シーズンに捧げる

●いま、この曲が聴きたい

好評連載

●宮尾行雄の ウンチク三味 今回のお題「拡大について」

満を持してお届けする新シリーズ！

●ニガテリズム

いよいよ開催間近

●第66回細胞検査士教育セミナー（倉敷）のご案内



# 前口上

数年前に「前口上」の中でお話しさせていただいた「シリーズ・嘆きの尿酸値」も、医学的意味での状況が落ち着いてきたことからひとまず終結していたのだが、ここにきて新たな動きがあったので「嘆きの尿酸値・番外編」としてご報告しておくことにする。

思えば、あの手この手と尿酸値を下げるための秘策を練り出してきた私。数年前に、多少の上下動はあるものの問題となるほどの高値が出なくなり、3カ月に一度の定期点検をくり返しながらか現在までやってきた。尿酸値の安定は、生活環境の安定に相関する。正しい生活環境、生活習慣が尿酸値を決めるのである。

まず第1に重要なことは食生活の改善だった。私の場合は、尿酸値を上げる可能性のある食物の摂取を可能な限りやめた。まずは、ビール（もう何年も飲んでません）。次に、焼き肉のホルモン系（もう何年も食べてません）。ついでに、果糖（あらゆる果物、きっぱり絶ってます）。なのに、ここまでがんばってきたのに、数ヶ月前、定期検査で過去最高の高尿酸値をたたき出してしまった。私としては突発的で偶発的な値と思っていたかったが、主治医からしてみると無視できない数値のようだ。診察時にいろいろ事情聴取され、尿酸値に最も影響を及ぼす可能性のある生活習慣について、厳しい指導が入ることになったのである。

飲酒。よろずアルコール類の摂取は、尿酸値を上昇させる。アルコール類とはビールだけに限らない。ありとあらゆるアルコール類がこれにあてはまる。尿酸値に関してビールがとくに問題視される理由は、尿酸生成にかかわる原料として他のアルコール飲料よりもその原料比率が高いからである。

ここ数年、飲酒の習慣については相当な改善を図ったつもりだった。ビールをやめて焼酎にした（焼酎の場合、尿酸生成の原料比からみると、ビールの180分の1だという）。また、ほぼ毎日のように飲んでいた晩酌の習慣を改め、週3日は休肝日を置くようにした。主治医にもこの努力を訴えた。だが、主治医の反応はじつにクールであった。

「えっ、焼酎飲んでるの？ いつもロックで？ 焼酎ってアルコール度数高いでしょ。だめだめ、飲みすぎ！」

「週3日の休肝日？ ってことは4日も飲んでるってことだよな？ だめだめ、飲みすぎ！」

けんもほろろ、取り付く島なし。カチャカチャカチャ…。主治医の指がキーボードをたたく。ディスプレイに表示された私のカルテに、主治医が何か書きこんでいる。そっと覗きこんだ私は、そこに驚愕すべき文字を見た。「禁酒」。この日、私のカルテには思いっきり「禁酒」の文字が書き込まれたのであった。とほほほ。

「節酒」でだましだまし尿酸値の壁を切り抜ける、これがここ数年の私のテーマであったような気がする。節酒時代に別れを告げ、禁酒生活は始まった。とはいうものの、酒飲みの方にはお分かりいただけると思うのだが、そう簡単に禁酒へと移行できるものではない。なにしろ自宅にはまだアルコール類が残っている。これを廃棄するのはあまりにも惜しい（と、いやしい酒飲み根性が顔を出す）。そこで、それらのアルコール類は週1回に限り少量ならば飲んでよい、それらがなくなったらもう購入しない、といういささか甘い制約をわが身に課すこととした。

それから3ヶ月後の定期検診で、「この間の高尿酸値は何だったの？」というほどに、尿酸値は普通の値に低下した。「もうほとんど飲むことはなくなりました（ちよっとうそですけど…）」の言葉に、主治医もうなずいている。このままの生活習慣が続くようなら、次回（3か月後）の検診はもう採血しなくてもいいでしょう、とまで言ってくれた。ああ、ありがたや、ありがたや。

禁酒生活のルールを定めた際、じつはもうひとつ、決めたルールがある。「飲み会のときには好きなように飲んでもよい」。喝！甘い！！と叱られそうだが、幸いにしてごくたまにしか飲み会に遭遇する機会はないので、このルールでも支障なくやっていけている。しかも、日々ダイエットのことを考えている人がたまに「好きなだけ食べてもいいよ」と言われてもおおのずと食事がセーブされるのと同様、たまの飲み会では「よーっし、飲むぞー！」と意気込んでみるものの、無意識のうちにセーブされて、たいした量は飲めなくなってしまった。まあこれもいい傾向だと解釈すべきなのであろう。

最後にこれだけは言っておきたい。飲み会では禁酒しません。どうぞ誘ってください！

（文・藤田勝）



# 嘆きの尿酸値・番外編



# 他個紹介

## 倉敷成人病センター の巻



### 石原真理子さん

### MARIKO ISHIHARA



岡山で細胞診をながくされているなら、知らない方はいない真理ちゃんこと石原真理子先輩の紹介をさせていただきます。

私が、倉敷成人病センターに就職して早20年とちょっと。当時は蔵重さん、石原さんと助手さんの3人という少人数でバリバリと仕事をこなされていました。寡黙な蔵重さんとそれを見事にサポートする石原さん、そんな‘阿吽の呼吸’が息づく職場に飛び込んだ新人の私は、恵まれた環境でお二人から細胞診のいろはを教えていただきました。

特に、石原さんの稀症例コレクションでは、たくさんのことを勉強させてもらいました。それと同時に、この石原’s コレクションからは細胞診への情熱と愛情がしっかりと伝わってきました。

皆さんもご存知の通り、石原さんは元祖内膜セルブロックの母でもあり、また迅速細胞診で興味ある症例に出会おうものなら、誰かが「もうこれ位で・・・」と勇気を持って声をかけるまで、石原さんのスタンプし続ける手は止まりません(笑)。しかし、この情熱こそが石原’s コレクションの源なのだと思います。

5年前より技師長職に就かれ、また石原さんの人望の厚さゆえいろんな依頼が舞込んで超多忙な職務をこなす毎日。現在もなお、蔵重さんが発する一言の行間を鋭く読み、時に突っ込み、家庭ではよき妻として、そして私たち後輩とその子供たちの成長も気にかけてくださる偉くなっても親しみやすい愛があふれる先輩です。

それから、石原さんは年を取らない!! ますますチャーミングになり若返ってるかも!? と、この機会に昔を振り返った私は不思議に思うのですが、その秘密はやっぱり石原さんの明るく楽しいお酒にあるのでしょうか!?

(by 小淵喜枝)



### 【ご本人からのコメント】

こんなに書いていただいて、感謝、感謝です。すごく嬉しかったです。この文章は、大事に引き出しにしまっておいて、辛い時に、そっと見ると元気が出てきそうです。ありがとうございます。今までを振り返ると、あっと間のような気がします。蔵重さんや小渕さんたちに囲まれて仕事をした楽しい思い出ばかりが浮かんできます。

小渕さんは3人の男の子の、やさしいお母さんでもあり育児も大変なのに、仕事の実力を発揮しながら美貌にも磨きがかかっていますね。人の気持ちを汲み取ることが上手で、後輩たちにも、すごく慕われていますが、私も、小渕さんのコメントで救われたり慰められたりしています。これからもよろしくお願いします。また、一緒に楽しいお酒を飲みながら、いろいろ話したいですね。

## 高田由貴さん

### YUKI TAKATA



高田さんは、総社から来ていますが、いつも朝一番に来て、夜遅くまで本当によく働いています。入社して、まだ3年目ですが、はや2年目にして切出しも一通りマスターし、ローテーションにも加わることができるほど飲み込みが早く、誠実な仕事ぶりなので任せて安心な人です。

彼女は素直で明るくて清潔感にあふれているので、皆に愛され、かわいがられています。また、料理を作るのが好きで、休みの日には腕を振るっているようですが、洋食から和食までレパートリーは広いみたいで素晴らしいです。複数の病理医から、ぜひ息子の嫁にと言われるほどかわいくて、しっかりした女性ですが、今、私が願っていることは、結婚は、転勤がなく、仕事に理解があり、ここに通勤できる距離の近くの人と出会って欲しいということです。ぜひ、ぜひ、このまま仕事を続けてくださいね。これからもよろしくお願いします。

(by 石原真理子)

### 【ご本人からのコメント】

素晴らしい紹介をしていただいてありがとうございます。こんなに褒めていただいてなんだか申し訳ないです…。ローテーションの仕事を覚えることができたのは、石原技師長をはじめ、先輩方の丁寧なご指導のおかげです。本当に感謝しています。料理は、最近する回数が少なくなっているので、やらないとなあ…と反省です。

とてもよい先輩方ばかりなので、まだまだ成人病センターでいろいろなことを学んでいきたいです。なので、ここで仕事が続けていけるような方と出会えるよう婚活頑張ります(笑)。これからもどうぞよろしく願い致します。

# 穂並聖子さん

**SEIKO HONAMI**



穂並さんにはじめてお会いしたのは、新人説明会の後病理に挨拶に来た時でした。覚えることが多くで大変だと思うけど、がんばりましょうと笑顔で言ってくださり、優しい先輩という印象でした。印象どおり優しく丁寧に指導してくださり、失敗した時はきちんと注意もしてくださいました。とても感謝しています。

仕事が早くなんでもスマートにこなしていけるすばらしい方です。また、とても社交性のなる方で誰とでも上手に会話をしている姿をよくお見かけします。人見知りな私からしたら、うらやましい限りです。

最近では、院内の委員会や支部会などの役員もされていて、とても忙しいと思うのですがさらにと仕事をこなしている印象があります。でも、見えないところで大変努力されている穂並さん。頭があがりません…。

年が近いというのもあり、よく悩み事を穂並さんに相談にのってもらいますが、親身に話を聞いてくださりとても頼りになる先輩です。頼りない後輩ではありますが、これからもどうぞよろしくお願いします。 (by 高田由貴)

## 【ご本人からのコメント】

仕事もできて、気が利いて、先輩を立てることも忘れないできた後輩ですが、それがよく表れている過大な紹介ですね。思わず調子に乗ってしまいそうです。

これからもご飯なり女子会なりで親睦を深めていきましょう！

# 瀬島雅子さん

**MASAKO SEJIMA**



瀬島さんとの出会いは6年前、私が新人として病理部に挨拶に行った時でした。鏡検室に入ると、一番手前の椅子に凜として姿勢で座っておられ、色んな意味で綺麗な方だな、と思ったのを今でも覚えています。(なのに腰痛持ち。なぜ。)

仕事に関しては、シンプルかつ効率的、こちらも綺麗な、というイメージです。説明の仕方も非常に分かりやすく、この人の下でよかったなあ、と何度も思ったものです。

最近は一児の母としてもがんばっておられ、ますますパーフェクトビューテ

イーになりつつあります。どこまで行くんですか瀬島さん。よく子供の話をされていますが、大変面白く、話に参加してないのに笑いそうになった時はどうしようかと思いました。

これからも仕事では頼れる先輩、家庭ではよき母として、その背中を我々に見せつけたって下さい。  
(by 穂並聖子)

#### 【ご本人からのコメント】

だいぶ脚色されているように思いますが・・・ありがとうございます。  
うらやましいほどに大きな目をキラキラさせながら挨拶に来た日のことを覚えています。その眼力（めぢから）は今も健在で、最近とても頼もしくなったなあと、ちまたで噂になってますよ。そんな穂並さんに甘えっぱなしでごめんなさい。十数年働いてきて、たった一年のブランクでこんなにも忘れてしまうのか!!!と、自分の記憶力の衰えに危機感を感じています。毎日あたふたしていますが、頼れる後輩が助けてくれるおかげで心強いです。これからも見捨てないでやってください！

## 小淵喜枝さん

### YOSHIE KOBUCHI



私が入社した時、ちょうど第1子を出産され産休中でした。あれから12年、3児の母になられたにもかかわらず、全く変わらぬ美しさでおられます。毎朝自転車で、風を切り、息を切らせ、タイムカードめがけてやってこられます。

家では3人の坊ちゃん達のお世話に、外ではいろんな花粉たちの攻撃に会い、仕事ではたくさんの細胞たちになやまされ、日々奮闘されています。その活力はやはり毎晩欠かすことのない晩酌のおかげでしょうか・・・。

時々、「あれっ・・・？」という行動で笑わせてもらっていますが、いつも面白いお話で和ませてくださり、また大人な意見で病理をまとめてくださる、頼れる先輩です。

私も現在1歳になる息子をもつ新米ママなので、仕事から育児のことまで何でも相談にのってくださり、とても心強いです。

これからも公私共々よろしくお願いします。

(by 瀬島雅子)

#### 【ご本人からのコメント】

過分な紹介ありがとうございます。この年になると、ほめられることなんてめったにないので今夜も気持ちよく晩酌できそうです。(笑)

育休明けに鏡検すると細胞がすごく小さくなってる!? ことを経験すること3回、職場の皆さんに助けてもらって、現在も細胞診を続けられていることに感謝です。

何かとツッコミどころ満載の私ですが、今後ともよろしくお願いします。



## 『大丈夫やで』 ～ばあちゃん助産師のお産と育児のはなし～

著者:坂本フジエ  
発行:(株)産業編集センター  
価格:1400円+税

ある日、所用で立ち寄った町の本屋さん、新刊が並ぶ一角を通り抜けようとしたその時、キラリッ!と光る一冊の本が目飛び込んできた。表紙が良い!!何とも素敵な笑顔のおばあちゃん。それもかなり高齢と思われるシワシワのおばあちゃんが、力強いしっかりとした両手で、生まれて間のない赤ちゃんを抱き支え笑っている。赤ちゃんの安心しきった様子に表紙をながめるこちらまで、あつたかく幸せな気持ちになってくる・・・これが、坂本フジエさんとその著書『大丈夫やで』に出会った瞬間。



皆様、お久しぶりです。お元気ですか?早速ですが、今回ご案内するこの本、決して出産を控える若い女性だけが対象ではありませんよ～!勿論、妊娠中にある女性の不安解消、あるいは育児に悩む新米ママさんへのアドバイスとしては即効間違い無し。けれども、この本、子育ても既に記憶の彼方となっている婦人方、更に、人類の半分を占める男性の皆様におきましても、つまりは、男女を問わず、年齢を問わず、読む人それぞれに、人間にとって無くてはならぬ大切な何かを思い起こさせ、気づかせてくれる、力ある本なのです。

著者、坂本フジエさんは大正13年生まれ、日本最高齢の現役助産師。23歳で和歌山県の自宅で「坂本助産所」を開業、出張助産婦に。73才でお産の多い同県田辺市に移転。これまでに4000人近い出産にかかわるとともに、子育てよろず相談所として地域に貢献。「助産所」の働きと同時に、70代で(社)日本助産師会理事及び和歌山県支部長という重責をも果たしてこられました。長年の功勞に対し平成9年、厚生大臣表彰を受賞。平成12年には黄綬褒章を受章されています。

内容は副題の通り、おばあちゃん助産師(読んでる内に、本当のおばあちゃんのように懐かしく、安心させてもらえるのです)坂本さんからのお産と育児のおはなしが、妊娠初期、中期～後期、出産、産褥期、新生児期、生後一年頃まで、興味深い様々なテーマで並んでいます。他に助産所の日々の様子も写真入りで紹介されています。具体的で実際的な内容を伝えながら、それらは、多くのいのちの誕生に向かい合い、かかわってこられた坂本さんであって初めて語れるものばかりと思います。親子とは何

か、夫婦とは何か、家族とは何か、人間とは何か、人生とは何か、幸せとは何か・・・いろいろ考えさせられます。ひとつのおはなしを読む度に、胸にジーンとくる発見があり、「そっか～！！」「う～ん、そうなんだ！」「そうだよね！」と、呟いている自分がいます。そして、もしも、私自身、妊娠、出産時代にこの本に出会えていれば、子育てがどんなに素晴らしいものとなっただろう・・・と思ったりしました。

では、本文を少しばかり開いてみましょう。

## 坂本フジエ著：『大丈夫やで』より・・・

### \*第1章\* 妊娠とわかったら

～妊娠、出産。初めてづくし。でも大丈夫、あんただけじゃない。  
大昔からみんながやってきたことやから。～

最近は、「妊娠検査薬で陽性でした」と言って、助産所を訪れる患者さんが多くなりました。何となく病院や助産所に足を向けることに抵抗があるのかな。私の助産所では予定日まで内診しません。怖がらず、もしも、と思ったら受診してみてください。初診時は、エコーで胎嚢を確認（妊娠四週後半から）。尿検査、体重、血圧、腹囲の測定、それだけです。誰もとって食ったりしないから、リラックスして。

さて妊娠とわかったら、初めてづくしで不安になるでしょう。でも、しょうがない。その原因はホルモンにもあるんです。妊娠すると、卵黄ホルモンに代わって、子宮を守るための黄体ホルモンが分泌されます。体が丸く優しくなる卵黄ホルモンに対して、黄体ホルモンはギスギスした感情になりがち。だから、気分が落ち込んだら「いま、ホルモンが悪さしてるな」って思っていればいい。「自分だけが苦しい」なんて思うことない。古今東西、みんなが通る道なんです。

～胎児はただ寝てるだけやない。週に一億年の長旅を  
おなかの中でしているんです。～

卵子と精子が結合した瞬間の大きさは、絹針でつついたほど。受精して四十日後、やっと大豆の大きさになります。私は、高校生の思春期講座に呼ばれると、生命誕生の瞬間を知って欲しくて、絹針の印と大豆を張り付けた小さい紙を用意して一人ひとりに配るんです。「この豆なんだろう」という顔だった生徒さんたちも、「人間の始まりは、こんなに小さいんやで。誕生したばかりの命って、やわいもんやなあ、大事にせなあかんあ」と言うと、真剣に聞いてくれますよ。

人類が発生して、現在の姿になるまで、四十億年かかったと言われますね。妊娠週数は四十週。おなかの赤ちゃんは、四十億年の進化を、わずか四十週でなしとげるわけです。一週間に一億年、一日に千四百万年。それは、宇宙規模の進化です。壮大なエネルギーのいることでしょう。私には、壮絶な成長過程をたどる赤ちゃんの大変さが、お母さんにも伝わって、つわりになっているような気がしてならないのです。

### \* 第3章 \* お産の兆候が来たら

～赤ちゃんが生まれる過程は、信じられんようなことばかり。

だから考えすぎはだめ。自然の力を信じること。～

赤ちゃんが生まれるのは、何度立ち会っても不思議です。六十六年お産の現場にいて、四千人近い赤ちゃんを取り上げていますが、同じ産まれ方は一つもありません。それは「同じ生き方が二つとない」というのと同じだと思います。お産の主導権は、誰が握っていると思いますか？助産師でもお母さんでもなく、赤ちゃんが握っているんです。人間の体には、六十兆の細胞があるといわれています。そのうち、百四十億が、脳の細胞。その百四十億の脳細胞を、一つも壊さんようにこの世に出ようと、どの赤ちゃんもみな思っています。ですから赤ちゃんは、絶対に自分が死ぬような生まれ方はしません。赤ちゃんに任せていたら、大丈夫なんです。お母さんのおなかにいるころ、赤ちゃんの肺にある四千五百万の肺胞には、水が詰まっています。その水が、十カ月のときには半分になり、産道の中でウンウンいうたびに水が少なくなって、お産の瞬間には、空っぽになるんです。そして、空っぽになった肺胞いっぱい空気をつめるために「オギャア」と泣くんです。

産道を通り抜ける瞬間、赤ちゃんはもう一つ大きな仕事をします。それは、自分の頭の形を骨盤に合わせること。骨盤の入り口は横長で、出口は縦長。そのため、頭が通り抜けられるように、赤ちゃんは自分で旋回して出てくるのです。赤ちゃんのいちばん大きいところが骨盤を通るときは、頭の骨の接ぎ目を重ね合わせて小さくし、頭をぐっと反らせます。そのとき、赤ちゃんは一瞬死んで、暗黒世界から光り輝くこの世に生まれてくるんだと、私はいつも感じるんです。

お産は人間の手に届くものではなく、神の領域。神の領域のことを、人間があれこれ考えたり心配したりしても、始まりません。私たちにできるのは、自然の力、赤ちゃんの力を信じることなんです。そして、生まれてきた赤ちゃんにとって最良の環境を整えてあげることです。

少しは雰囲気、感じていただけたでしょうか？まだまだ「お父さんの出番について」、「授乳に大事なものは」等々、紹介したい内容がいっぱいですが紙面の都合上このあたりで止めておきます。この本の魅力は、終わり部分で語られる坂本さんの人生と重ね合わせた時、更に大きくなると思います。

私自身、日々、細胞診業務をとおり、膣・頸部細胞、体内膜細胞を顕微鏡下で診ていながらも、この子宮に宿るいのちの神秘、その素晴らしさを忘れていたような気がします。

良かったら是非読んでみてください。

by K子



K's presents

2012-2013

# コンピュータ

# ワンダーランド

最近、何かと光ってます！ の巻



みなさん、お・げ・ん・き・ですか？

意味もなく点を入れて文字数を稼ごうとするせこい自称コンピュータオタク K です。前回、医療情報技師の資格取得の話を書きましたが、後から恐るべき事実がわかりましたのでちょっとだけ触れたいと思います。

あの試験は 4,201 人が受験し 33.99% の合格率でした。3 科目の受験ですが科目合格した人は 2 年引き続けるので 1 科目や 2 科目だけ受験した人も多かったと思います。もちろん受験者は情報分野の強者だと思います。その中で 50 過ぎの門外漢の臨床検査技師の割合は極少数と考えています。試験後、しばらくして合格証が来たときは初受験で合格して運が良かったと思っていました。と・こ・ろが、ずいぶん後でわかって、かつ非公式なのですが、どうも 3 科目とも最高点が取れていたみたいです。特に「医療情報システム」では合格点が 75 点のところを 90 点台後半でしたから、かなりいけるんじゃないかなと思ってましたが、全教科（3 科目です）とも最高点ということは間違いなくこの試験でトップの成績で合格したことになります。公式発表が無く確認できないことをいいことに「オレってスゲーだろ。1 番だぜ〜。」と、密かに自慢して回っている今日この頃です。

さ一本題も終わったところで・・・

Windows 8（以下 Win8）が登場しましたね。この OS は近頃すっかり幅をきかせているアップル社の iPad への挑戦だと思います。ビジネス界では文書やプレゼン作りなど仕事には Windows 使用が常識化されていましたが、プレゼンの実演や持ち歩く端末としては逆に iPad などアップル製品が使われて来ています。となると、手にはアップル、鞆の中には Windows と 2 種類の PC を持ち運ぶことになり苦労しているビジネスマンも多いようです。そこにこの OS の登場です。今回の目玉は画面に直接触れて操作する「タッチインターフェース」が実装され、操作性が向上したことや、新しいスタート画面には、これ

までのメニューと違って大きなタイルが並ぶようになった事です。そのほかにもクラウドとの連携も強化されたり、「ストア」でアプリをダウンロードで入手するなどが新機能として挙げられています。

早速、本を買い、PC ショップで試用してみました。解説本は良いことしか書かないので余り当てになりませんが、ショップのお兄さんは「売れない」とぼやいていました。実際にさわってみると、なるほど「タッチインタフェース」が使えるマシンでは、指操作でそれなりの効果が実感できましたが、隣にしていた「タッチインタフェース」未対応のマシンでは、ボタンが大きすぎて一覧表示できず、使いたいアプリが探しにくい印象でした。それと、今回からスタートボタンが消え、ソフトも全画面表示が基本のためタスクバーが表示されず、ソフトを探すこと、切り替えること、同時表示で使うなどに支障を感じました。他の新しい機能も使う事があるのかどうか疑問です。今、Win7 を使っていて Win8 にバージョンアップしようとしている人がいたら、まず所有している PC が「タッチインタフェース」に対応しているか調べ、対応していたらバージョンアップしても恩恵がありますが、非対応なら使い勝手が悪くなるだけでとてもおすすめできません、やめた方が良いでしょう。たぶんほぼ全ての人が後者だと思います。

それから Kindle も本格的に販売になりましたね。これは、そもそもは電子書籍を読むための専用端末ですが、iPad や Win8 同様に操作や画面が洗練されており、多機能なため PC のかわりに使えそうです。しかし、一部で出版社が撤退する話もあり先行きが心配です。

次は光の話題です。やっと来ました我が家にも、光ですよ、光。と、こう書くとも薄暗い家を思い浮かべるかもしれませんが、それは違います。光通信ケーブルが配線され、光インターネットが利用できるようになったという意味です。他地区では早くから光ケーブルが来ていましたが、私の住む K 町では全くその気配が無く、パソコンショップの入り口に出向している某通信会社の光キャンペーンお姉さんに何度呼び止められても「住まいは K 町です」と、言うだけで素っ気なく追い返されていました。地元のケーブルテレビに「光は何時だ？」とメールしても「度重なるお問い合わせ誠にありがとうございます。」と丁寧なイヤミを言われた上に、「まだだよ！」と何年も足蹴にされていました。

ところがこの 1 年の内に OTT 社がエリアを拡大し、ついに K 町も対象となりました。なぜか少し遅れて同時期にケーブルテレビもサービスを始めました。ケーブルテレビはプロバイダーも兼ねているので、プロバイダーが別契約になる NTO 社とは値段が安いのですがスピードが当初 10Mbps と遅目でした。これはすぐに 100Mbps となり値段も、スピードも断然お得となりました。

ところで、この地区のケーブルテレビは地元に着目して、市の広報にも一年前からこの予告が載っていました。世の中悪いやつがいるみたいで NTO 代理店と名乗っては訪問や、電話を何度もかけてきます。「ケーブルテレビが良さそうと聞いたんですが」と少しでもケーブルの名前を出すと、「あっそう」とさっさと帰っていきましたが、事情がよくわかっていないお年寄りとかはずいぶん契約したみたいです。聞くところによると代理店の中には有りもしないサービスを口約束して契約をとるだけとって、会社ごとなくなったよう

で、OTTに苦情を言っても「代理店の言ったことはこちらでは・・・」と相手にしてもらえず双方困っているようです。現在、解約続出状態になっていますが先日また懲りもせず新たな代理店から電話がありました。「絶対お得。パソコンあげます」といかにも怪しい。変な訛りがあるので聞けば九州から電話をかけているとのこと。ますます怪しいと思いながらも時間がなかったので聞き込みもできないまま切ってしまいました。

後で確認したところ、光電話の契約でパソコンをくれるサービスは実在するみたいですが、わざわざ契約取るのに九州からかけてくるか普通？真偽の程はわかりませんが、皆さんも気をつけて下さい。

それはそうと、光回線は快適です。同時に契約した光電話ももう少しで使えるようになります。何せ光電話ですから着信と同時に電話が光るのではないかとすごく楽しみにしています。(そんなバカな！)

さて、最後はいつもの質問コーナー。切実な悩みを抱えるお父さんからの質問のようです。

## K お悩み相談室

**Q:**「子供が一人暮らしをすることになり、ネット環境を整えなければならなくなりました。フレック●光を勧められていますが、何となく値段がお高いような気も・・・(ほとんどケータイで事足りて、PCでのネット使用頻度は低いらしいのです)。LTEとか、別のももあるみたいですが、やっぱり光がいいのでしょうか？」

**A1:** PCで速度重視、住居のみで外出使用無しならちょっと高くてもフレック●光がおすすめです。しかし、PCでも外出使用があるなら少し速度が落ちますが少し安めの●MOBIL LTE(Long Term Evolution)になるでしょう。住居のみの使用で速度軽視の場合はどこでも好きなどころで良いと思います。

**A2:** 引きこもりには光、アクティブ派には●MOBIL。うちは親子そろって光でこもってます、とほほ。

…いつまでたってもお父さん(自分も)の悩みは尽きません。ではまた。



# いま、この曲が聴きたい

*Masaru Fujita Present's*

現在、3月中旬。世は卒業式シーズン真っただ中である。この時期、卒業にちなんだ曲がそここから聞こえてくる。卒業にはドラマがある。とりわけイベントとしての卒業式は、このドラマ感を盛り上げ、別れのセンチメンタリズムは人々の心を高揚させる。ここで登場してくるのが「卒業ソング」だ。ある意味で、卒業ソングとは、卒業にまつわるあれこれを昇華し、結晶化したものにとらえることができるかもしれない。それは、いやおうなく人々の心に響く。これまで、卒業ソングと分類されるべき数多の楽曲が、毎年この時期に登場し、くり返しくり返し歌われてきた。しばしばそれらは名曲と呼ばれ、少しずつではあるが定番ものに新しい楽曲を加えながら、卒業ソングは、邦楽の一分野として、時期限定ではあるものの確固たる勢力を保っている。



個人的なことを申し上げるならば、卒業というイベント自体にこれまであまり思い入れを持ったことがない。小中高大とそれぞれ卒業式を経験してはきたが、卒業ソング的センチメンタリズムで涙することはなかった（校舎の窓ガラスを壊して回ったこともないので「支配からの卒業♪（尾崎豊・卒業）」てな感覚もべつになかった）。どちらかといえば、私にとっての卒業とは「ああ、やっと終われる、ひと段落つく…」というなにがしかの安堵感をもたらすイベントであった。

そんな私ではあるが、けっして卒業ソングが嫌いなわけではない。それは卒業ソングが季節感と密接に連動しているからだ。卒業ソング



因で病院を乗っ取られた人物。すべてのホームレス仲間から食通として一目置かれているという設定だ。登場するホームレス仲間の面々もきわめて高いレベルの食通集団である。先生が歩きだし、見送るホームレスの面々。ここでその中の一人が、「揚げば尊し」冒頭部分を歌い出す。徐々にかぶさるコーラス、そして全員での大合唱。なにしろこの「揚げば尊し」、音楽的な意味でもクオリティが高い（もしも専門家によるアフレコではなく、出演者が歌っているのだとしたら、相当練習したに違いない。いや、ひょっとすると「揚げば尊し」が先にあって、それに合わせて歌える役者を人選したのかも）。それにしても、この場面で「揚げば尊し」、よく思いついたなど、あらためて伊丹十三監督の偉大さを認識したのであった。「タンポポ」はどちらかといえば笑いの要素が中心の映画であるが、それゆえにここでの「揚げば尊し」は、本当に胸にしみる。

というわけで、いま私が聴きたいのは、「映画・タンポポの中で先生を見送るホームレスの人々が素晴らしいコーラスで聴かせる、揚げば尊し」です。

## 追記

今年、川崎医科大学の畠榮氏が定年退職され、お世話になったものが「畠榮氏を囲む会」としてお祝いの会を開催する運びとなった（予定通りであれば、本文執筆の3日後が開催日）。定年といえば、職場における卒業とも言えるであろう。揚げば尊し、畠氏の恩…。というわけで、お祝いとお礼を込めて「揚げば尊し」を歌わせていただく予定にしている。

## おまけの追記

映画「タンポポ」の「揚げば尊し」は、もちろん YOUTUBE にアップされているので、検索すればどなたでもご覧になれるはず。ただし、このシーンで感動を得たいなら、このシーンに至るまでの部分、すなわち映画を最初からご覧になったほうがよいでしょう。

宮尾行雄の

UNCHIKU-ZANMAI by Yukio Miyao

# ウンチク 三昧

今回のお題

拡大について



この年になって、いろいろな事を振り返ってみるが、反省なんて全くしていない。家中の写真を捜し出してそのフィルムをベタ焼き（今様にはコンタクトシート）にしている。働きだして3ヶ月目に給与1ヶ月分よりも高価なカメラを買って以来だから、撮り貯めたフィルムは大量だと思っていたが、たいした量では無かった。自分で撮った写真であるにも関わらず、いつ頃の撮影か思い出せない。コマの前後の関係から、どんなことがあったか思い出そうとするが、わからない。ここはパソコンの出番である。スキャナーで写真を取り込み、拡大してみると、保育園の年齢別帽子の色や学校の制服についた名札、友人・親戚の赤ん坊等々により年代が判るのである。

顕微鏡でも対物レンズを交換して高倍率にすると、見えるものも多かった。しかし、低倍率で見る視野の方が組織の関係がいろいろ見えて楽しかった。先日はブルーベリージャムに白いカビが生えて捨てようとしたのだが、団塊の世代のしたたかさで、白いカビを顕微鏡で観ると糖分の針状結晶であった。現在ヨーグルトと混ぜて食している。

亡くなった人との思い出を、もっと詳しく思い出そうと拡大しようとしても、これは上手く出来なかった。魂の存在を疑う。

自分が撮った、どうしてもよいような写真を眺め日々暮らしている今日である。



——人に苦手あり!

# ニガテリズム



OH!  
NO!!

主宰 藤田 勝

人に歴史あり。そして、人にニガテあり。

しばしば日本人は、「ニガテはすべからく克服されるべきである」と考えがちだ。ニガテは欠点である、欠点は正さなければならない、とはたしてそうだろうか。否。誰が何と言おうが、幾つになろうが、ニガテなものはニガテなのである。本人の意思において克服されるニガテはよいとしても、ニガテを無理やりに矯正する必要などないのではないか。なぜならば、ニガテとは個性の土台にほかならぬからである。

ニガテをマイナスと考えないこと。ニガテを自分から開示し、笑い飛ばすこと。ニガテのカミングアウト、これをニガテリズムと呼ぶことにしよう。ニガテリズムとは、ニガテを負から正に転換するプロセスである。

——さあ、己のニガテを開け。己のニガテを笑え。



## ニガテリズム 1 (投稿者:主宰・51歳)

ニガテ度 3



### ●誰に似てるかわからない

たとえば身内に子どもが生まれ、家族や亲戚やらが集う場面がある。このとき、生まれた子どもを囲んで交わされる会話を再現してみたい。

「この子の目元はお母さんに似とるなあ」

「いやいや、おじいちゃんの目元に似てない？」

「そうか？ まあ口元はお父さん似じゃけどな」

「えーっ、どっちかっていうとおばあちゃんの口元じゃろ？」

「いやいや、わたしや本家のおばさんの口元にそっくりじゃと思うがなあ」

私はこの会話に入っていくのが苦手である。頼むからその話題、俺には振ってくるなと心の中で祈っている。子どもも2、3歳になれば、それなりに顔の造作にも傾向が出て来て「うーむ、こいつお父さんに似てきたな」とか思えるのであるが、生まれて間もない子どもの、それも顔のパーツ単位で誰に似てるかなんて、みんなよくわかるよなあ、と、半ば感心し、半ば不思議に思いながら、話を聞いているのが常だ。正直言って、いくら眺めてみても私にやぜーんぜんわからんのである。

兄弟に子どもが生まれた時も、いどこに子どもが生まれた時も、友人に子どもが生まれた時も、自分自身の子どもの生まれた時も、上記のような会話がくり返されてきた。まあ厳密性を追求する議論としてみんなしゃべっているわけではないだろうから、どうでもいいっちゃあどうでもいい会話ではある。あるいは、そのような場面では、ほかに話題にすべきことがないのかもしれない。それにしても、である。毎度毎度くり返されるこの会話、つまりこれは、ある種の儀式的な意味合いを含んだ行動様式なのではないか。いや、さらに突き詰めるならば、DNAの表現型として顔の造作を観察し、DNAが正しく受け渡されたことの確認を行う、生物学的意義を内包した行動とも理解できる（おおげさで、ごめんなさい）。リチャード・ドーキンス説くところの利己的遺伝子論に則って解釈した場合、われわれのこの行動は利己的なDNAに踊らされている結果ととらえることができるであろう（ますますおおげさで、ごめんなさい）。

というわけなので、生まれて間もない子どもの目元や口元が誰に似ているか、けっして私には聞かないでほしい。



## ニガテリズム2（投稿者：主宰・51歳）

ニガテ度 4



### ●水にいきなり入れない

TVドラマや映画などで、砂浜から海に向かって駆けて行った若者が、勢いそのままにザブーンと飛び込んでいくシーンを見ることがある。自分もやったことがある、と言われる方もおられよう。このこと自体がいいか悪いかは別として、若々しい躍動感のあるシーンには違いないし、見ているぶんには楽しそうでもある。

だが、私にはできない。どう考えても無理である。一応言い訳しておくなら、「もう、いい年だから」という理由からではない（ま、多少はあるかもしれないが…）。たとえ今、20歳代であったとしても無理だと思う。また、「泳げないから」ということでもない。少くく波があつたって、おぼれない程度には浮いていられる自信がある。ついでに、「青春ごっこやってんじゃねーよ」と斜に構えて眺めているというわけでもない。あんなふうにできたら

楽しいだろうな、という思いも少なからず持っているのだ。ではなぜ自分には無理だと断言できるのか。その理由はただ一つ、なにしろ冷たい水にいきなり浸かるのが苦手だからである。

子どものころから寒さに弱かった。それは今も変わらない。冬場は、できることならコタツを背負って歩きたい、そう思ったこともたびたびある（前世はカメか？、あ、でもカメならいきなり水に入れるか…）。私の「いきなり水に入れない」は、どうやらこの延長線上にあるような気がする。

子どもがまだ小さかった頃、夏場には必ず一度や二度、海水浴に出かけることがあった。ご承知のとおり、子どもというものは水を前にすると、ひたすら水に浸かりたがる動物と化し、スキあらば海に向かって突進していく。放っておいてもひとりで泳いでくれるようになれば、べつにどうということもないのだが、小学校低学年くらいまではどうしたって親がついていないと危険でもあるし、一緒に海に入らないわけにはいかない状況がそこにはある。で、あわてて子どもの後を追ひ、海に入っていくことになる。

沖縄あたりの、サンゴ礁に囲まれた南国遠浅の海ならともかく、地元瀬戸内海となると、水温は低い。夏だって低いのである。そこへ入っていかねばならない私の身にもなってもらいたい。と言ってみたところで、子どもに通じるはずもなく、奴らは「わーいわーい！」とばかり、何の抵抗もなく水の中に突き進んで行くのだった。

私も一応、膝くらいまでならば、さほどためらいなく入っていく自信はある。もう少し勇気を振り絞るならば、腰が浸かるところまでは、まあどうにか止まらずに入っていけるだろう。だが、限界はここまで。腰から肩口までをいかにだましだまし水の中へ入れるか、これこそ海水浴における私の試練であり、越えなければならないどこまでも高い壁である。

壁を超えるための第1歩として、人差し指でパシャパッシャと水を胸のあたりにかけてみる。これではほぼ焼け石に水だ。そこで意を決して掌についた水を胸や肩にすりつけてみる。少し慣れてきたような気がする。しかし背中は無防備だ。さあどうする。掌に水をすくってかけてみるか。ううっ弱った…、などと逡巡することしばし。さすがにこのあたりで、そろそろ覚悟を決めねばなるまい、という気分になってくる。「武士道とは死ぬことと見つけたり」、そんな言葉が頭をよぎる（たかが海水浴にやって来たくらいで武士道を持ち出すのもどうなんだか）。機、熟せり。精神一到何事か成らざらん。じわりじわりと体を海水に沈めていく。このあたりの様子を傍から眺めた場合、「めちゃくちゃ熱い一番風呂に、ウーッと唸りながら浸かろうとしている横町のご隠居」といった体であろう（事態としてはその逆であるが）。だいたい胸辺りまで沈みこんだところで、大きな波がやってきて「ウヒャッ！」と思った時には肩まで水に浸かっている。一度肩までつかってしまえば、もう大丈夫。水に入るまでは苦手だが、水の中に浸かってしまえばもうこちらのもの。あとは楽しく水の中で過ごすことができるのである。めでたし、めでたし。

しばらく海の中で遊び、砂浜に上がる。乾いた砂は夏の日差しを受け、しっかりと暖まっている。寝そべると冷えた体には実に心地よい。ああ、極楽、

極楽。だが、本当の地獄はこの後に待ち受けているのである。

このまま砂浜で遊んでいてほしいという親の願いもむなしく、数分もしないうちに子どもは再び海に向かって突進していくのだった。やむなく子どものあとを追いか海に向かう私。またしても「横町のご隠居」が待っているわけだ。ただし、2度目の「ご隠居」体勢であること、そして砂浜で暖をとった極楽感が体に残っていることから、水中に進んで行く辛さは最初に入ったときとは比べものにならないほど倍増している。膝のあたりまで入るのさえ辛い。いわんや全身をや。

最近子どもも大きくなり家族で海水浴に行くこともなくなったが、海に入らず砂に埋もれたりしながら浜でごろごろしていい、と約束してくれるなら、海水浴に行く用意はある（勝手に指宿でも行って来たらどうだ、って話っすか…?）。



## ニガテリズム3（投稿者：主宰・51歳）

ニガテ度 2



### ●お酌に廻れない

昔からお酌が苦手である。いや、ただお酌をするだけならばさほど問題はない。隣同士で、あるいは席を挟んで「ま、ま、どうぞ」「いやー、すみませんねえ」などというやり取りは、ためらいなくできる。もういい年だし。でも、いくつになっても苦手なのは、ビール瓶や徳利を片手に、席から席へとお酌をして廻ること。宴会の間中、遊牧の民と化し、あっちこっちと席を渡り歩く方がいらっしゃるが、これは私のような宴席定住型の人間からするととてもうらやましく見える。

若い頃から、宴席で一度座りこむや、ほとんどその場から動かない定住型スタイルを貫いてきた。たとえば最初の就職先で新入職員歓迎会を開いていた時、このスタイルだったので、先輩方が入れ替わり立ち替わりお酌をしにこちらまで来てくださる。宴席が終わるころには、新入りなのに「もう勤めて10年くらいになる奴」と思われている。お断りしておくが、けっして横柄な態度をとっているわけではない。先輩には礼を持って接し、あくまでも新入りとしてかしまっているだけなのだ。だから、宴席の開幕から閉幕までほとんどビール瓶を手離すことなく、そこそこで盛り上がっている輪の中へビール瓶ひとつを武器に切り込んでいく方々には、もうひたすら敬服するのみである。その雄姿に「あんたはえらい！ おみそれしました！ よっ大統領!!」と心の中で喝采を叫んでいる（若干うそあり）。

もちろんこれまでの人生において、宴席での遊牧スタイルを余儀なくされる場面もあった。冠婚葬祭でのホスト役（「いらっしゃいませ、奥様！」っていうやつじゃないです、念のため）を務めねばならないときには、ビール瓶片手に会場内を遊牧した。50代に入った今ならば、苦手とはいえ役回りとし

てふられたなら、さほど苦もなくやれるだろうとは思いますが、30代のころの宴席遊牧はなにしろ辛かった記憶がある。

宴席での定住型を貫いて30年。さすがにこの道30年ともなると容易にはスタイルを変えられない。ただ、最近、周囲との違和感がない形で、自分にとってはとても楽な宴席定住のスタイルを見出すことができた。「司会席」という名の宴席定住である。「宴席での司会なんぞ御免こうむりたい」という向きも多いのではないかと思うのだが、私にとってこの立ち位置（というか座り位置）はむしろ気楽だ。念のために申し上げておくと、あくまでも司会が楽なのであって、幹事をやりたいということではない。ここのところはひとつ誤解のないように（幹事として宴席をセッティングし、会計関係を含めて全体のお世話をするのは、いささか気疲れするところがあるので、得意な方をお願いしたい）。

というわけで、「司会さえやってくれたらあとは自由にしてい、好きなもの飲んで、好きなもの食って、まあ会費ももらわなくてもいいや」と言ってくださる奇特な方がおられたら、ほいほい出かけていくのでお声掛けください。

# ニガテリズム



## 投稿募集中！

●あなたの「ニガテ」を教えてください。

### 【投稿規定】

1. お名前を明記してください（ペンネーム、匿名希望も可）。
2. 年齢を明記してください（できるだけ実年齢をお願いします）。
3. ニガテ度を5段階で評価してください。
4. 字数制限はありません。図や写真の使用もOKです。
5. 送信アドレスはこちら → [me7911@hp.okayama-u.ac.jp](mailto:me7911@hp.okayama-u.ac.jp)



あなたのニガテ、待ってます！

第66回

# 細胞検査士教育セミナー



# 倉敷

## 講演

- 肺癌の原因遺伝子ALKの発見と分子標的治療の実現  
竹内賢吾 先生
- HPV非感染性子宮頸部腺系病変の見方と捉え方  
三上芳喜 先生
- 尿路上皮(治療後の細胞診の役割)  
有安早苗 先生
- アスベスト小体と中皮腫の発生メカニズムに関して  
中村栄三 先生
- 新子宮体癌取り扱い規約を基盤とした細胞診の見方  
柳井広之 先生
- Fluorescence in situ hybridization (FISH) 法を用いた  
細胞診断 —中皮腫診断への応用—  
松本慎二 先生

近日、  
受付開始！

## ワークショップ

## セルフアセスメントスライド

臨床画像所見を踏まえた細胞診の見方と捉え方

- 乳癌: 藤吉健児 先生、阿部英二 先生
- 膵・胆道系: 広岡保明 先生、多比良朋希 先生

## コンサート

- 「Rest of the afternoon」 by フジヤマ

開催日

8月31日(土)

2013

9月1日(日)

会場

倉敷芸文館ホール



66th Seminar of the cytotechnologist

# KURASHIKI